AIJ 愛乗ストリーム

取扱説明書

[保管用・保証書付]

この取扱説明書はご使用になる前に必ずお読みください

このたびは、エーアイジェイ（AIJ）の愛乗ストリームを
お買い求めいただきまして誠にありがとうございます。
この「取扱説明書」には、軽量歩行車・愛乗ストリームを
安全にお使いいただくための注意事項と使用方法などを記載しておりますので、
ご使用前には介護なさる方もご一緒によくお読みいただき、
正しく安全な取扱い方法をご理解のうえ、ご使用ください。

目次

お願い

取扱説明書はお読みになられた後も、いつでも見られるところに保管してください。
また、お買い求めの製品は改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
なお、ご不明な点がございましたらお買い求めの販売店または弊社までお問合せくだい。

株式会社　エーアイジェイ

1 事故防止・安全使用のための注意事項

⚠ ご使用前の注意・点検事項

①組立調整は確実に行ってください。
②使用時に広げたり、収納時に折りたたんだりするときは、幼児を近づけないでください。
③各部のカシメ鋲、ネジ、ナットがゆるんでないか確認してください。
④ハンドルの高さ調節部（左右）が固定されているか確認してください。
⑤製品各部を点検し、特にブレーキ、パーキングブレーキおよび左右両輪の性能については、ご自身・同伴者（付き添い者）で十分に確認してください。
⑥タイヤおよびブレーキの磨耗等がないかを保守・点検し、必要に応じて調整または交換してください。（交換はお買い求めの販売店にご依頼ください）

⚠ 警告事項（生命にかかわるケガをする恐れが想定される内容を示しています。）

①この製品は100kgを超える方が使用されると、本体が破損・変形してケガをする恐れがあります。この製品の耐荷重（最大使用者体重）を超える方は使用しないでください。
②転倒してケガをする恐れがありますので、操作が理解できない方（認知症の方など）や12歳以下のお子様には使用させないでください。
③転倒・転落してケガをする恐れがありますので、シート（座面）に人を乗せたまま使用しないでください。またシート（座面）以外の場所に座らないでください。
④シート（座面）の上に立ち上がったりすると、転落・転倒してケガをする恐れがあります。
絶対にシート（座面）を踏み台代わりに使用しないでください。
⑤ブレーキが不完全な状態ですと、歩行車が動き事故やケガをする恐れがあります。
シート（座面）に座るときは、必ず左右のパーキングブレーキを掛けてください。
⑥バランスを崩し転倒して、ケガをする恐れがありますので、片側のみに重心を掛けて使用しないでください。
⑦重心が不安定になり、転倒してケガをする恐れがありますので、バッグの中以外の場所に荷物を掛けたり、載せたりしないでください。
⑧高さ調節ボルトは、2箇所とも確実に締付けた上でご使用ください。1箇所でもゆるんだ状態で使われますと、高さ調節ボルトがはずれ、歩行車がバランスを崩すことになり、転倒しケガをする恐れがあります。
⑨転倒・転落して、ケガをする恐れがある、次のような状況、場所では使用しないでください。
＊夜間・雨の日。滑りやすい路面や、凹凸のある場所。階段やエスカレーター。急な坂道。
⑩ブレーキを掛けながら走行したり、引きずったりしないでください。
＊転倒してケガをしたり、タイヤの磨耗・故障の原因となります。
⑪思わぬケガや歩行車の破損の原因になりますので、お客様による改造・修理は絶対にしないでください。
⑫思わぬケガをする恐れがありますので、ご使用になる前には、8ページの「ご使用前の点検」をよくお読みいただき、点検を行なってください。

2 歩行車の使い方

＜1＞ 開梱・組立および調節

1. 開梱（箱からの取り出し）

①箱の上部のテープをはがし、ふたを開きます。
②本体や付属部品を箱から取り出すとともに、ポリ袋等をはずします。
③本体や付属部品（背もたれ・ハンドル部分と高さ調節ボルト・バッグ）および取扱説明書を確認ください。

2. 組立（ハンドル部分・背もたれ部分およびバッグ）

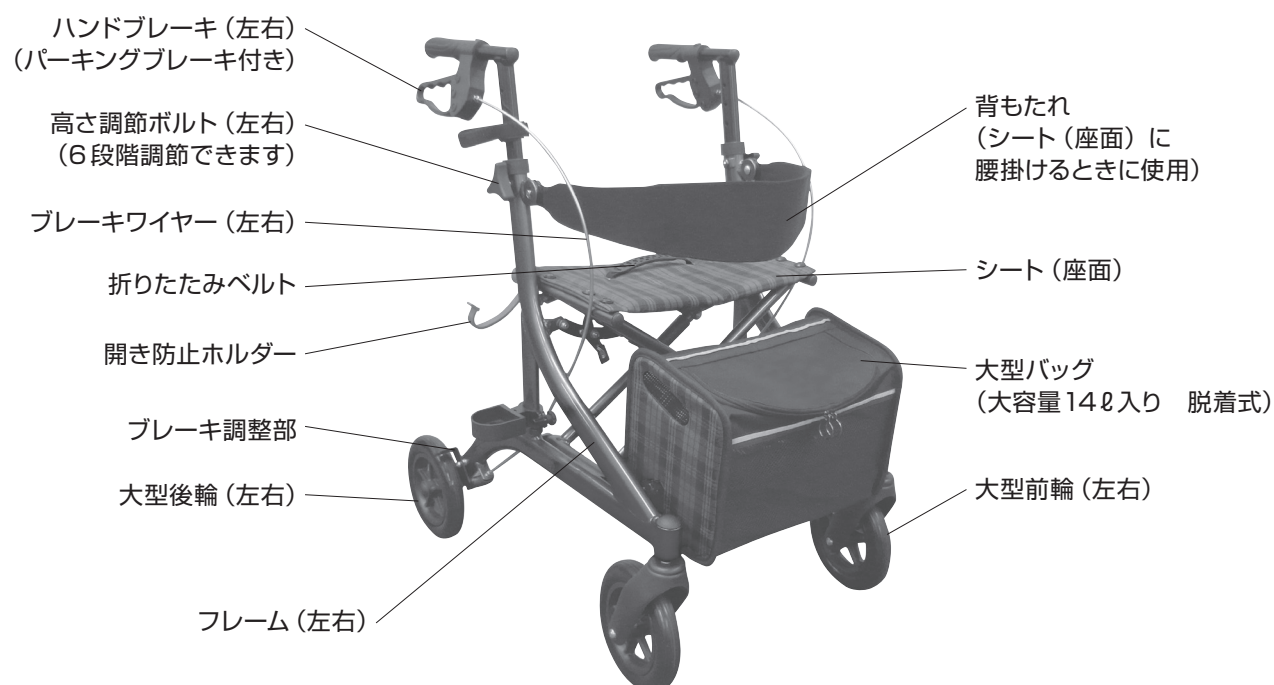
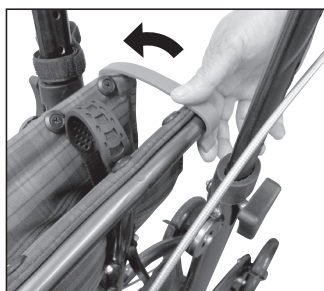
①ハンドル部分：ハンドル取り付けパイプを本体フレームのパイプに差し込んで、左右の高さを合わせながらそれぞれ高さ調節ボルトでしっかりとハンドルを固定してください。
②背もたれ部分：本体フレームについている背もたれ取り付け部の脱着ピンを、内側（キノコ形の頭部の反対側）から指で押し込み、頭部をひっぱるようにして、抜いてください。（左右とも）
次に背もたれの両端の金具をそれぞれの取り付け金具の真ん中の割れ目にはさみこんでください。最後にそれぞれの穴の位置が合っている事を確認しながら、先程抜いた取り付け脱着ピンをキノコ形の頭部を外側にして差し込んでください。
③バッグの取り付け方については7ページ <12> バッグの取り外し方・取り付け方を参照してください。

3. 調節

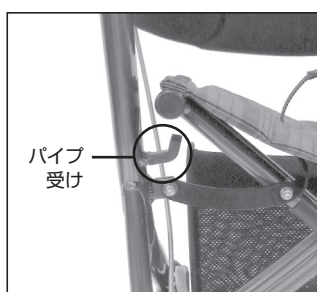
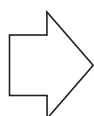
①ハンドルの高さ調節方法は、5ページ <5> ハンドル部の高さ調節を参照してください。

⚠注 意	・ハンドルは必ず左右同じ高さにしてください。また、指をはさまないようにしてください。 ・ブレーキワイヤーは、それぞれ背もたれの外側にまわしてください。 ・必ず背もたれを取り付けた状態でご使用ください。背もたれ無しの状態で使用されますと、転倒やけがをする恐れがあります。 ・背もたれ取り付け部脱着ピンを抜いたり入れたりするときは、指先を挟まないように十分注意していただくとともに、背もたれが確実に取り付けられているかご確認ください。

＜2＞ 各部の名称

愛乗ストリーム（寸法・諸元等仕様は後の10ページをご覧ください）

＜3＞ 車体のひろげ方

①赤い開き防止ホルダーを外します。

②シート（座面）の中央部を手のひらを外側に向け、押し広げるようにして、シート（座面）をセットします。

座る前に

シート（座面）パイプがパイプ受けにセットされていることを確認してください。

シート（座面）パイプがパイプ受けにセットされた状態。

⚠注 意	・左右のパーキングブレーキを掛けてから作業を開始ください。 ・指を挟まないようにシートを押し下げて広げてください。

＜4＞ 車体の折りたたみ方

①シート（座面）中央部の折りたたみベルトを持ち上げると本体が左右に折りたためます。

②両側のハンドルを持ち、内側にさらに折りたたみ、開き防止ホルダーをかけて保管してください。

ポイント
ハンドルを低くすることによって、よりコンパクトに収納することができます。

⚠注 意	・保管時は開き防止ホルダーをしっかりとかけてください。

＜5＞ ハンドル部の高さ調節

①写真中央の部品が高さ調節ボルト。

②片側の高さ調節ボルトを左（反時計まわり）に廻し、ボルトをゆるめます。

③ボルトを抜いてください。

④残りの片方も、同じ要領でボルトを抜きます。
⑤高さは6段階に調節できますので、必要な高さの穴を選んでください。
⑥左右同じ高さが確認できれば、高さ調節ボルトで確実に締め付けて、ハンドルをセットしてください。

⚠警 告

・高さ調節ボルトは、両方とも同じ高さにして確実に締め付けてください。
・高さが違ったり、ボルトがゆるんだまま使用されますと、歩行車がバランスをくずし、転倒して事故やけがをする恐れがあります。

・左右のパーキングブレーキを確実に掛けてから調節してください。

＜6＞ ハンドブレーキの操作方法

①ブレーキレバーに指をかけ、強く握るとブレーキが効きます。
②握った指を離すとレバーは元に戻り、ブレーキが解除されます。

⚠注 意

・必ず両手でハンドルを握って、両側のブレーキを掛けてください。片方だけの操作ですと、反対側の車輪だけが旋回し転倒してケガをする恐れがあります。
・ブレーキ操作の時に、ハンドルグリップとブレーキレバーの間に指を入れないでください。指をはさんでケガをする恐れがあります。

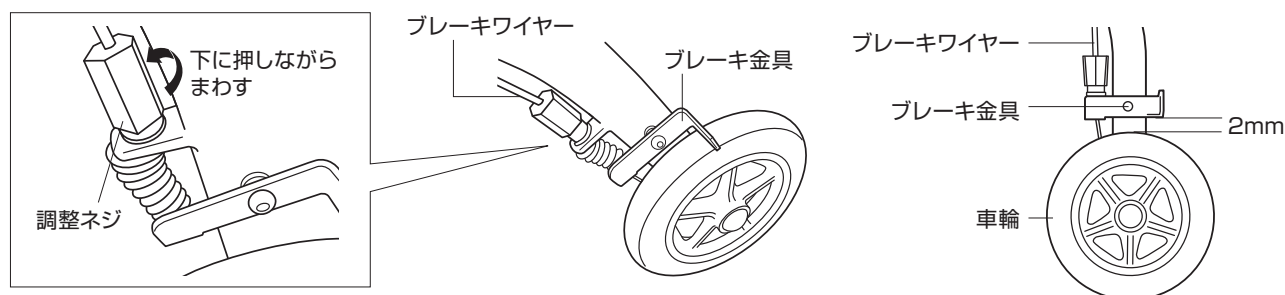
＜7＞ パーキングブレーキの操作方法

①ブレーキレバーを押し下げるとパーキングブレーキが掛かり、後輪がロックされます。（左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です）

②ブレーキレバーを上に上げるとパーキングブレーキが解除されます。
ハンドルグリップとブレーキレバーの間に指をはさんで操作しないでください。
ブレーキレバーのはね返りで指をぶつけますので十分注意してください。

＜8＞ ブレーキの調整

ブレーキの効きを強くするとき

①調整ネジを、下に押しながら反時計回り方向にまわし、ブレーキ金具のすき間を調整します。
②車輪端とブレーキ金具のすき間が約2mmになったところが調整の目安です。

⚠注 意	・調整ネジを時計回りにまわすと、ブレーキの効きが弱くなります。

・ブレーキ金具と車輪端とのすき間が約2mmになるように調整をしてください。
・ブレーキ調整の後は必ずブレーキレバーを操作し、ブレーキが確実に効くことを確認してください。

＜9＞ 腰掛け方、立ち上がり方

1. 腰掛け方

①腰掛けられる前に、シート（座面）が確実に固定されているか確認ください。
②必ず左右両側のパーキングブレーキをかけ、本体が動かないように注意しながら、両手はハンドルから離さずに、少し深目にゆっくりとお座りください。

2. 立ち上がり方

①立ち上がるときは、必ず両手でハンドルを握り、体を支えながら十分に注意し、ゆっくりと立ち上がってください。

⚠警 告

・坂道や傾斜のあるところでは、絶対に腰掛けないでください。転倒の恐れがあり、大変危険です。
・ハンドルの片方だけに力を入れて立ち上がろうとすると、転倒し、ケガをする恐れがあります。
・歩行車を後ろに押し出すように立ち上がろうとすると、後方に本体がすべってしまい、ケガをする恐れがあります。

⚠注 意

・耐荷重（使用者最大体重）は100kgです。それ以上の体重の方はご使用になれません。
・すべり易い床面では、ブレーキが効かず動くことがありますので、ご注意ください。
・シート（座面）に腰掛けるときはシート（座面）に無理な力を加えないでください。シート（座面）が破損する恐れがあります。
・必ずブレーキがロックされていることを確認してから、立ち上がってください。

＜10＞ 杖ホルダーの使い方

①杖は「杖ホルダー用ストラップ」に差込み、先ゴムを「杖ホルダー」で受けてください。

⚠ 注 意	・ストラップは面のマジックテープになっていますので、長さはご自由にお決めください。なお作業されるときは、衣服等にひっかからないようご注意ください。

＜11＞ バッグの使い方

①バッグを使用する際はファスナー付きのフタを開閉してください。

⚠ 警 告	・バッグに乳幼児などを乗せたりしないでください。転落・転倒しケガをしたり、歩行車が破損・変形する恐れがあります。また、バッグが歩行車から外れてケガをしたり、バッグを破損する恐れがあります。 ・バッグの中には5kg 以上の物を入れないでください。歩行しづらいだけでなく、転倒してケガをしたり、歩行車やバッグが変形・破損する恐れがあります。

＜12＞ バッグの取り外し方・取り付け方

1. 取り外し方

①左右のパーキングブレーキをしっかり掛け、シート（座面）中央部の折りたたみベルトを少し上げてください。歩行車が少し折りたためます。

ポイント
本体を少し折りたたむことにより、バッグの取り外しがよりスムーズにできます。

②歩行車を少し折りたたんだら、歩行車の前にまわりこみ、バッグの前部から左右の持ち穴（2ヶ所）に手を掛け、少しななめ上手前に引くようにして取り付け金具から、バッグを引き抜きます。

2. 取り付け方

①左右のパーキングブレーキをしっかり掛け、シート（座面）を少し持ち上げてください。
②バッグの両側の穴を持ち、左右の取り付け金具にバッグ側の金具が合うように調整しながら、押し下げてバッグをセットしてください。
③バッグがセットされたらシートを拡げて、再度バッグの取り付け金具がセットされたか確認してください。

＜13＞ ご使用前の点検

◎歩行車をお使いになる前に、安全のため各部の点検を行ってください。

1．まずは全体的に次の項目の点検を行ってください。

①本体のがたつきやゆがみがないか点検し、ボルト・ナットがゆるんでいないかも併せて確認し、ゆるみがあれば締め付けてください。
②装着品の確認も忘れずに行ってください。
ハンドル・背もたれ・シート（座面）・バッグはしっかりと固定されているか確認してください。

2．次に下記部品の点検を行ってください。

①ハンドル……ハンドルの高さは左右同じで、しっかり高さ調整ボルトで固定されているか、確認してください。
②ブレーキ(ハンドブレーキ･パーキングブレーキ) ……左右のブレーキレバーを操作し､ハンドブレーキ･パーキングブレーキの効き具合を確認してください。（詳しくは５～６ページのブレーキの項を参照ください）
③車輪(前輪･後輪) ……タイヤの片べりや磨耗がないか､車輪にごみや小石がはさまれていないか確認してください。また、車輪がスムースに回転するか、また、方向転換するか確認してください。
④シート（座面）……シート（座面）両端のパイプが、本体フレームのパイプ受けにしっかりと、セットされているか確認してください。

・車輪、ブレーキワイヤー、背もたれ、シート(座面)、バッグ、折りたたみベルト、ストラップ付杖ホルダーは消耗部品です。
・上記部品が消耗したときや、点検で異常が発見されたときは、お買い求めの販売店に交換・修理をご依頼ください。

＜14＞ こんなときは

状況	原因	対処方法
ブレーキが効かない	ブレーキワイヤーの折れ曲がり	ブレーキワイヤーの交換（お買い求めの販売店へ）
	ワイヤー止め位置のずれ	ブレーキのワイヤー調整を行ってください
	タイヤの磨耗	タイヤの交換（お買い求めの販売店へ）
パーキングブレーキが効かない	ブレーキ金具のねじれ、曲がり	ねじれ、曲がりを修正してください
	車輪の破損	車輪の交換（お買い求め販売店へ）
ハンドルがぐらぐらと動く	ハンドルの高さ調節部がきちんと固定されていない	ハンドル高さ調節部分の固定ボルトが、穴にきちんとセットされているか、確認してください
車輪が回転しない	車輪の回転軸に、砂や土が混入	車輪を手で回転させて、砂や土を落としてから、回転軸のすき間に油を差してください
車輪の回転がスムーズでない。直進性も悪い	車輪の片べりや損傷	車輪の交換（お買い求めの販売店へ）
水平な場所でも、歩行車全体が前後左右に傾く	車輪のへり	車輪の交換（お買い求めの販売店へ）
その他、車体の破損や車輪の交換について		お買い求めの販売店にて、修理または部品の交換を行います（ご依頼ください）

・万一、破損・異常が発生した場合または発見した場合は、そのまま使用せずに、お買い求めになった販売店にご連絡の上、点検・修理をお受けください。

3 ご注意事項

ご使用前

①この歩行車は、自立歩行が困難な方の歩行を補助するために製作されています。
ご使用時、体調によっては危険な時もあり得ますので、ご自身の状態でご使用可能かどうかご判断ください。
また、自立歩行に不安のある時は、同伴者に付き添ってもらってください。
②ご使用に際して、介護支援専門員（ケアマネージャー）もしくは福祉用具専門相談員にご自身の状態や体調をお話されてからご相談ください。
③用途以外はご使用にならないでください。また、乗り物（電車・バス・自動車等）の中でもご使用にならないでください。
④泥・砂のあるところや、水たまりではご使用にならないでください。また、風雨の強いときはご使用にならないでください。
⑤この商品の耐荷重（最大使用者体重のことです）は100kgです。
⑥ご使用の前には各部の破損・ゆるみ・磨耗、また、車体のがたつき・ゆるみがないか点検のうえ、ゆるみがあれば締めつけてください。特に長期保管後の使用再開時は必ず点検してください。
⑦車輪、ブレーキワイヤー、背もたれ、シート（座面）、バッグ、折りたたみベルト、ストラップ付杖ホルダーは消耗部品です。
これらの部品が消耗していたり、点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店へ修理（交換）をご依頼ください。

ご使用中

①シート（座面）に人を乗せたままの使用は危険ですので、お止めください。
また、シート（座面）以外のところには座らないでください。転倒してケガをする恐れがあります。
②シート（座面）を踏み台代わりに使わないでください。
③シート（座面）に座られるときは、段差のある場所や傾斜面での使用は避けてください。
④シート（座面）に座られる時には必ず左右のハンドル部のブレーキを左右両輪に利かせてから、お座りください。
⑤ブレーキが掛かった状態で、歩行車を押さないでください。ブレーキが効かなくなり、非常に危険です。
⑥ハンドルとブレーキのグリップの間に指をいれたままで、ブレーキを操作しないでください。
思わぬ事故につながる恐れがあります。
⑦杖を持ちながら等、片手でのご使用はしないでください。思わぬ事故につながります。
必ず杖はストラップを利用してホルダーに収納してご使用ください。
⑧前輪を持ち上げた状態では、使用しないでください。
⑨歩行車から離れるときには、必ずパーキングブレーキを確実にお掛けください。
掛かりが甘いと思わぬ事故になる恐れがあります。
⑩バッグに乳幼児を乗せて使用しないでください。
また、バッグに物を入れたままで、歩行車を折りたたまないでください。
⑪歩行車を折りたたんだり、開いたりするときに、手や指を挟まないように十分ご注意ください。
また、幼児や子供さんを近づけないでください。思わぬケガをする危険性があります。

お手入れ方法

①車輪や車体がきしむ場合は、連結部等にミシン油等を数滴注油してください。
（注油後、開閉操作を2〜3回くりかえしてください）
②シート（座面）やバッグ部以外の本体の水気は、乾いた布で水分を取り、日陰で乾燥してください。
③バッグは洗濯しないでください。
④長時間使用しない時は、汚れを落とし日陰で保管してください。
⑤弊社のサービス員以外の分解・組立や改造はしないでください。

ご使用後・保管

①フレーム（車体）や車輪についた泥や砂を放置したまま保管しないで、必ず落としてください。
②熱湯で洗浄しないでください。故障・変質・変色の原因となります。
③よく絞った布で、土やほこりを拭き取ってください。
④雨水に濡れたら、それらの水気を十分に拭き取ってください。乾いた布で水分をとり日陰で乾燥してください。
⑤バッグの汚れは、柔らかい布でふいてください。
⑥シンナーやベンジンなどの揮発性溶剤は決して使わないでください。
⑦雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因となります。また、長時間ご使用にならないときは、歩行車を折りたたんだ上、日陰で保管ください。（「折りたたみ方」は４ページに記載しておりますので、ご参照願います）
⑧寒いとき、暑いときには、戸外に置かないでください。バッグやシート（座面）が変色したり、硬化してトラブルの原因になる恐れがあります。（温度－10℃～ 50℃の環境で保管してください）
⑨潮風の当たる場所・直射日光の当たる場所に保管せず、必ず室内で保管してください。
＊変形・変質・さびなどの原因となります。
⑩この説明書は本体とともに保管してください。また、本製品を他の人に譲られるときは、必ず本書も併せてお渡しください。

廃棄

①廃棄につきましては、各自治体により分別方法が異なることがありますので、それぞれの指示に従って処分や廃棄を行ってください。

紙
説明書

4 仕様

項目・名称		愛乗ストリーム
全幅（cm）		50
全高（cm）		69～84
全長（cm）		70
ハンドル高さ（cm）		69～84（6段階調節）
ハンドル内幅（cm）		40
シート（座面）高さ（cm）		49
シート（座面）大きさ（cm）		幅37×奥行24
車輪（キャスター）径（cm）		φ18
重量（kg）		7.5
耐荷重（最大使用者体重）（kg）		100
バッグ容量（ℓ）とバッグ内寸（cm）		14ℓ　約32×18×24
材質	本体フレーム	アルミ
	背もたれ（クッション部分）	合成ゴム（NBR）
	座面（シート）	ダクロン
	バッグ	ナイロン
	車輪	タイヤ：ウレタン（PU）　ホイール：ポリプロピレン（PP）

5 保証とアフターサービス

1. 保証書

この商品には保証書を次ページにお付けしております。

<ご注意>
弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

2. 保証対象とその期間

消耗部品（＊４項に後記）を除く本体、お買い上げ日より1年間。

3. 保証期間後

お買い求めの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有償修理させていただきます。

4. 消耗部品（＊２項の後記分）

●車輪
●ブレーキワイヤー
●背もたれ
●シート（座面）
●バッグ
●折りたたみベルト
●ストラップ付杖ホルダー

5. 補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、５年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

6. 本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになるときは、必ず本書もあわせてお渡しください。

7. 一度使用したものは、原則として製品のお取替えはできません。

<お願い>
異常や不具合が見つかったら使用を中止して、すぐにお買い求めの販売店までご連絡ください。

愛乗ストリーム保証書

取扱説明書の注意書きに従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無償修理いたします。
製品と本書をご持参のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。
製品のある場所での出張修理や製品輸送の場合は、出張料や輸送費などの実費を申し受けます。

品名	愛乗ストリーム	型　名	SMー18A
※お買い上げ日	年　　月　　日		
保証期間と保証対象	本体お買い上げ日より　1年		
※お客様お名前		お電話番号	
ご住所	〒		
※販売店名 住所・電話番号	〒　㊞		

※印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

<ご注意>

1. 保証期間内でも次の場合には有償修理になります。
   ①使用上の誤り、および改造や不当な修理による故障および損傷。
   ②弊社が指定する適合品以外の製品と組み合わせて使用したことによる故障および損傷。
   ③お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷。
   ④火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、および公害、塩害、煙害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧などによる故障および損傷。
   ⑤消耗部品の交換。
   ⑥本書の提示がない場合。
   ⑦本書にお買い上げ年月日、お客様名および販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
2. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in japan
3. 本書は盗難・火災などの不可抗力以外で紛失された場合は、
   再発行いたしませんので大切に保存・保管してください。

<修理メモ>

＊お客様にご記入いただいた記載内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。
＊この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。
従って、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明な場合は、お買い求めの販売店にお問合せください。

Printed in China 2012.08

株式会社　エーアイジェイ
〒532-0004 大阪市淀川区西宮原２丁目7-38　TEL : 06-6393-3622　FAX：06-6393-3822
http://www.aij-osaka.com